

## —— 謹賀新年 ——

今年もよろしくお願ひ申し上げます

国際ロータリー第2660地区  
ガバナー

大谷 透



1月はロータリー理解推進月間です。我々ロータリアンはロータリーのことをよく理解し、身につけ、また世間一般の人々にもロータリーの信条や目的をよく理解してもらえるように努力を奨励する月です。

昨年11月に伊勢で行われた第2630地区の地区大会に記念講演者として招待された小泉純一郎元総理は、「これからの日本」と題した講演を行い、最後に結びの言葉として、ロータリアンへの敬意と励ましの意を込めて下記の中国の格言を引用されました。

少にして学べば 壮にして為すことあり

壮にして学べば 老いて衰えず

老いて学べば 死して朽ちず

少而学 壮而有為  
壮而学 老而不衰  
老而学 死而不朽 (三学戒 佐藤一斎)

解りやすく解説すれば次のような意です。人は少(わか)くして学ぶ楽しさが身につけば、壮年になった時、社会の役に立つ人物となる。壮年になって学ぶ意欲が心の底から湧き出せば、老いても日々の人生が充実し、周囲を明るくするものだ。老いて学ぶ人は、今までの人生経験に輝きが増し、後世の人々に大きな目標・理想の炎を燃やし続けさせる人物となる。

ロータリアンの中には、ロータリーを生涯学ぶことによってロータリーを身につけ、この格言を

実践されている人を多く見かけます。我々はロータリーを通じて出逢える会員相互の交流や奉仕活動の場を、楽しい「人生道場」として、少(わか)くして学び、壮にして社会に貢献している人、壮にしてRCに入会し、老いて輝いている人、老いても学び続け、後の世に希望や目標や教訓を与え続けている人に出逢う事ができます。この格言の信憑性は多くのロータリアンの生き様によって実証されています。

ロータリー理解推進月間になすべき事は、ロータリーに関する知識を広めたり深めたりする事です。其れよりも理解しようとする心、学ぼうとする意欲を身につけることが大切です。今は情報化時代です、ロータリー情報もここかしこに溢れています。「ロータリーの友」も「ガバナー月信」も毎月発行されますし、インターネットで調べれば知識は簡単に手に入ります。しかし、「道は近くとも行かなければ到達せず、事は小さくても行わなければ成就しない」のです。

1月27日はポール・ハリスの命日です。RIはこの日が在る週を記念追悼週間と決めています。死して朽ちないロータリーの先人達の生き方を偲び、ロータリーの理解を深めましよう。

